

■シェーンブルン宮殿

ベルサイユ宮殿に優るとも劣らない ハプスブルク家の夏の離宮として建てられたシェーンブルン宮殿はウイーンの街の中央から外れた所にある。

1696年レオポルト1世の時代に建築が始まり18世紀マリア・テレジアの時代に完成した。数百年にかけてハプスブルク家がヨーロッパの支配者だったことがこの宮殿でうかがい知る事が出来る。

部屋の総数は1441室という大宮殿、外壁はマリア・テレジア・イエローといわれる黄色、周囲は大きな庭園に囲まれている。

内部の写真撮影は禁止の為写真が無いのが残念である。

大広間の鏡の間はフレスコ画の天井の素晴らしい大空間である。歴史的ないろいろな会議やモーツァルトの演奏が行われたところでもある。内部のプランも大きな陶器製のストーブも薪をくべる使用人の動線が面白い。

インテリア装飾も部屋ごとの個性も楽しく、インドの飾りの部屋や中国の螺鈿の装飾といろいろで当時の世界の中心である文化が見ることができる。

